

仰げば尊し

文部省唱歌

鎌田拓也 編曲

グレード：2

編成：小編成吹奏楽(最低演奏人数 20 名程度)

演奏時間：約 3 分 調整：Es dur

曲について

「仰げば尊し我が師の恩～」で始まる卒業式の定番曲です。とはいえ最近の卒業式ソングは変化しつつあります。しかし万人愛され涙を誘うこの曲は名曲であり、今を生きる私たちがしっかりと引き継いでいく必要があると思います。2007 年には日本の歌百選にも選ばれた名曲でもあります。2011 年の 1 月について原曲と思わしきものが一ツ橋大学の名誉教授により発見され話題にもなりました。原曲はブロスナン作曲の「Song of the close of shcool」という作品で旋律やフェルマータの位置も一緒だそうです。

余談ですが、「今こそ別れめ」の「こそ」は係助詞で強意なので結びが已然形となり「め」となります。「別れ目」と勘違いしている人も多いようですが「別れよう」の意味になります。卒業式で演奏すること念頭に書きました。最上級生が抜けたバンドであってもサウンドが薄くならないように考慮しました。コーラス譜をつけていませんが合唱の伴奏としても使えると思います。お別れ会、卒業式、先生へのサプライズ演奏などに重宝します。

演奏にあたって

メロディーラインのスラーは日本語の歌詞にならってつけました。演奏者は歌詞を参考にフレージングを考えてみるとよいでしょう。

オーケストレーションとしては徐々に編成が大きくなるような仕組みになっています。前半は別れを惜しみ過去を振り返る場面、編成が大きくなるにつれて未来へ向かって頼もしく歩いていく場面というイメージで書きました。歩いていくイメージを象徴するのは S.D です。また伴奏を担当するパートも前半に比べ音符が細くなっていきます。美しい旋律の曲ですが、音楽の推進力を失わないで前に進むイメージを大切にしてください。曲の最後は再会を約束し別れ、相手の背中を眺め見送るという風景を想定したためダウンエンディングとなっています。歌詞とはまた別の物語性を持って演奏されるとよいかなと思います。

(編曲者：鎌田拓也 2012.11.28)

仰げば尊し

slow ♩ = 120

©2012 by TakuyaKamada